

「ソフトアプローチパス」の世界

株式会社グッドバンカー
リサーチチーム

アジア初の SRI 商品は 1999 年に当社が開発した「エコファンド」です。

これは環境問題の改善、解決をはかり、世界をサステナブル（持続可能）な方向へ誘導するために、市場メカニズム、金融という仕組みを使おうという、制度へのアプローチでした。しかし、このようなお金の流れが拡大しても追いつかないほど、その後の環境問題は悪化の一途をたどりました。最近の、気候変動でもたらされる災害の多発や、さまざまな環境指標の悪化は「人類生存」の条件がおびやかされていることのシグナルではないか？ といっても過言ではないと思えるほどです。

ここに来て、私たち自身のライフスタイルを抜本的に変え、新しい経済と社会のあり方を求める世界的な流れがあるように見えます。

たとえば SRI の中で、化石燃料への投資をストップするキャンペーンがありますが、それよりも、世界中の人々がほんの少し肉を控え、野菜中心の生活にすることの方が健康にも良く、エネルギー消費を減らす実効性があるのではないかと、このような考え方が広がっています。

国連が 2016 年を「国際豆年」として、食生活に豆のような植物性たんぱく質をもっととり入れることを提唱していることも、この流れの一環とみています。

1976 年にイギリスの物理学者、エモリー・B・ロビンスにより提唱された「ソフトエネルギーパス」という概念が、風水力など環境にやさしい再生可能な自然エネルギー、いわゆるソフトエネルギーによる持続可能な社会への道を示し、その開発をあと押ししました。21 世紀は、“眠る、呼吸する、食べる” など人間活動のベーシックな側面における“スタイル”にアプローチすることで、環境負荷を減らし、地球のサステナビリティをはかる「ソフトアプローチパス」の時代ではないでしょうか。経営スタイルの中にその流れをいち早くとり入れている企業への投資が、今まさに求められているといえるでしょう。